



・ 注 意 事 項 ・

- ・服装は、会社指定の制服・制帽又はヘルメット。(私服はダメ)
- ・靴は動きやすいもの。(サンダル等はダメ)
- ・夜光チョッキ、手袋、赤色灯、旗は、必要ありません。
- ・腕時計を用意してください。
- ・特別講習(事前講習含む)は、録音・録画・撮影等の行為は禁止。
- ・試験時は、携帯電話・スマートフォン・スマートウォッチ等は持ち込み禁止。
- ・遅刻は厳禁ですので、時間に余裕をもっておこしください。
- ・体調不調等で休まれる場合には、協会携帯にご連絡ください。

・ 学 科 に つ い て ・

- ・学科試験は、教本を中心に出题されます。
- ・教本を繰り返し読んでおいて下さい。
- ・講義を受ければ、学科試験に合格できるというものではありません。
- ・教本と問題集を併用することをお勧めします。

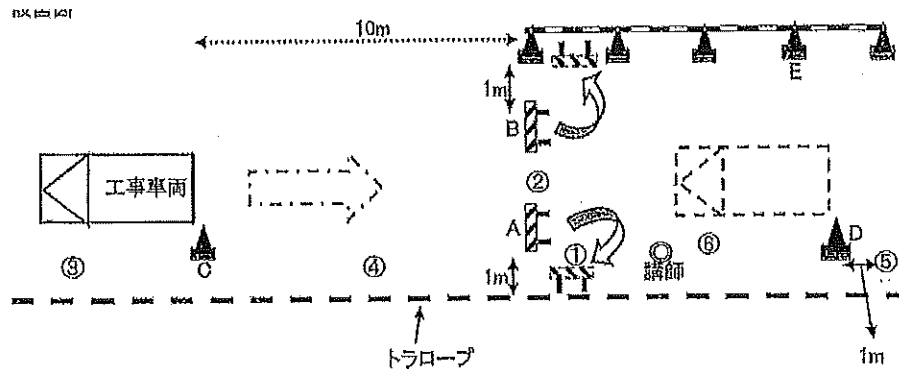
しっかりと予習し、復習することが合格へつながります。

・ 実 技 試 験 に つ い て ・

- ・実技試験は、6科目で100点になります。(90%以上で合格です。)
- ・文言、動作は、しっかり覚えてください。
- ・それぞれの科目の流れ、動きをよく確認して、訓練してください。
- ・周囲を見て、他の人の動作を確認する行為はカンニングになります。

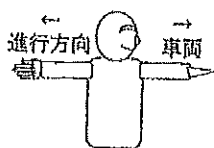
素手による後進誘導要領

設営図



号令「只今から、後進誘導要領の実技訓練を実施する。始め。」

- 1 ①の位置で講師に正対し、「実施します。」と申告する。
- 2 左向け左を行い、自然な姿勢で左右の警戒を行う。(カラーコーン C、カラーカーン D を交互に顔を向けて見る。下記の無線交信中も同様。)
- 3 講師がトランシーバーで警備員に対し、工事車両が到着した旨の連絡を入れる。
講 師:「間もなく工事車両が到着、誘導願います、どうぞ。」
警備員:「工事車両誘導の件、了解。」と復唱する。
- 4 駆け足で移動し、出入口の内側から保安柵 A を開放、続いて B を開放し規制内の内側の両端にそれぞれ撤去する。(設営図参照)
- 5 次に、出入口の中央②へ移動し、工事現場内における道路の安全を確認し、中央付近を指差して、「後方よし。」と呼称する。
- 6 右向け右を行い。駆け足でトラロープの右側端に沿って工事車両の助手席横③の位置まで移動し、右向け右を行い、運転手に正対し「後進誘導を行います。」と申告する。
- 7 右向け右をし、駆け足で車両の後方 5m の④の位置に移動する。(カラーコーン C から保安柵があった場所まで 10m あるので、真ん中に行けば、ちょうど 5m。)
- 8 左向け左を行い、体を工事車両に平行させる。
- 9 警笛をくわえた後、
 1. 後方の安全確認をする。
 2. 右腕を肩の高さ水平に上げ、手のひらは前に向ける。(顔はまだ後方の確認を継続)
 3. 車両を注視し、左肩を肩の高さ水平に上げ、左手のひらは上に向ける。



鼻の位置まで前腕のみで
振り返る。



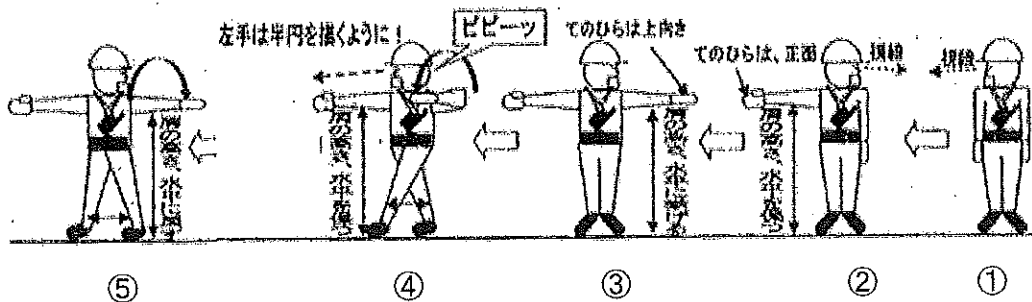
肩を動かさずひじを動かす。 この動作のときに笛を吹く。



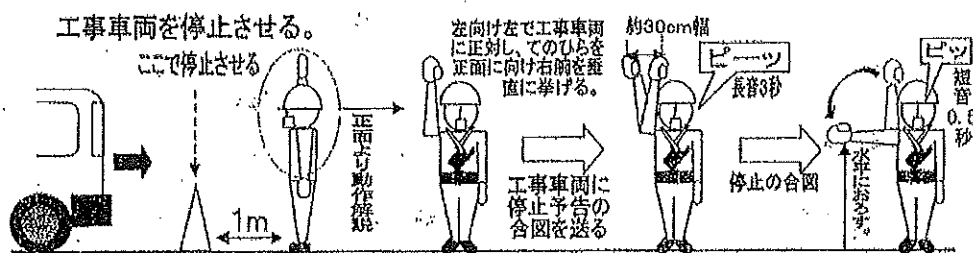
- 10 誘導中は 1 回の誘導動作に 1 回以上は、顔を左右に向け安全確認を行い、両足は転倒しないように自然歩行する。

- 11 警笛は左前腕の振りに合わせて引き寄せるときに「ピーー」と吹く。
- 12 後進誘導開始位置④から⑤への誘導中は、工事車両との間を 5m に保つ。
- 13 ⑤位置まで誘導しながら移動し、工事車両が 1m 手前のカラーコーン D で停止するように基本の姿勢になってから左向け左で車両に正対する。(自分が⑤に到達後、工事車両とカラーコーン D の距離が遠い場合は方向変換せず、その場で安全確認を行いながら誘導を継続する。目安としてはカラーコーン E に工事車両の後部が来るまで、その場で誘導を継続する。)

★後進誘導要領(正面よりの動作解説)



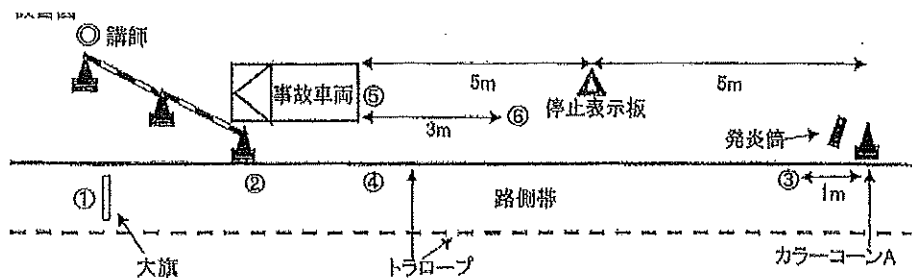
- ① 警笛をくわえ、後方の安全確認を行う。
 - ② 視線を車両後部に移すと同時に右手を水平に挙げ車両の進行方向を指し示す。
 - ③ 左手(腕)を肩の高さに挙げ後進誘導を開始する。
 - ④ 警笛を吹鳴し、誘導しながら歩行を開始し、車両との距離を保つ。(約 5m)
※警笛は、左腕を引き寄せるときにその都度吹くこと。
 - ⑤ 歩行しながら後進誘導
※1回に1回は必ず後方に視線をやり安全を確認する。
- 14 基本の姿勢から手のひらが前方(工事車両側)に向くように右腕を下から上へ前を通して垂直に上げ、工事車両を注視しながら、左右に約 30cm の振り幅で振り、右肩の肩の高さ水平までに下ろす。



- 15 警笛は予告の合図の状態から吹き始め、停止の合図が完了すると同時に吹き終わるように約 3 秒間「ピーー」と吹鳴する。
- 16 右腕を下ろし警笛をはずし、工事車両の助手席横⑥まで、駆け足で移動し、右向け右を行い、運転手に対し、「誘導終了しました。」と申告する。
- 17 駆け足で移動、保安柵 B を閉鎖、次いで A を閉鎖し、左斜め後ろに1歩下がり、①へ駆け足で移動し、出入口中央を指差し、「閉鎖よし。」と呼称する。
- 18 その場で大きく右向け右を行い講師に正対し、「終了しました。」と申告する。

交通事故現場における二次災害防止要領

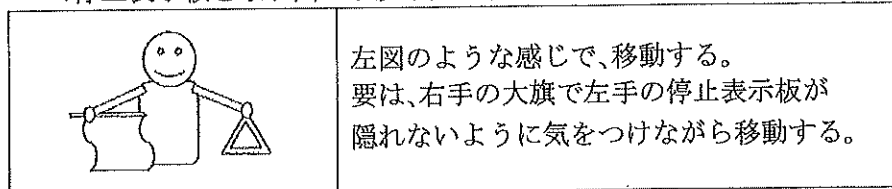
設営図



号令 「只今から、二次災害防止要領の実技訓練を実施する。始め。」

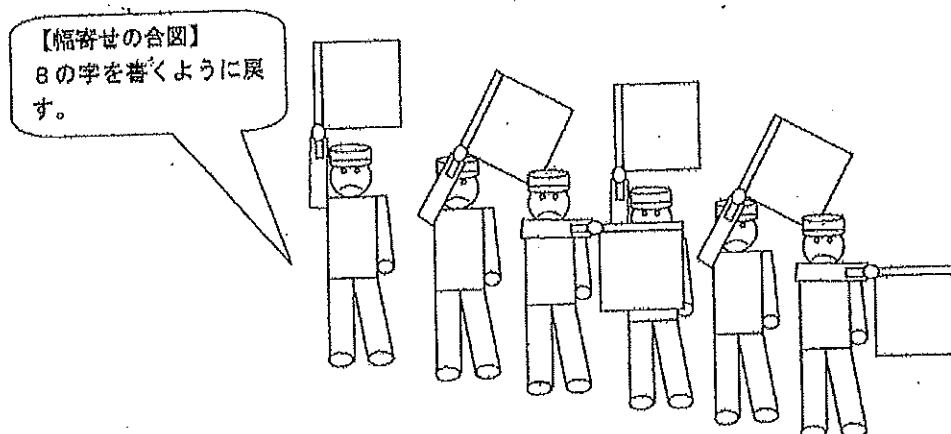
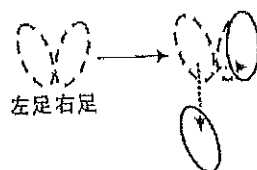
- ①位置で講師に正対し、「実施します。」と申告する。
- 大旗を右手に持ち(片ひざをつき、取り上げる)右向け右をし、駆け足で事故車両の助手席横②に移動する。
- 事故車両の助手席側から運転手をのぞきこみ、「大丈夫ですか。」と問いかける。
- 事故車両の運転手に、「停止表示板と発炎筒をお持ちですか。二次災害防止のため、私が設置しますので、非常点滅灯をつけてください。発炎筒を取ります。」と告げ、左手で助手席側のドアを開け、助手席に置いてある発炎筒を左手で取る。(助手席のドアを開ける際は後方に気をつけながら開ける。)ドアを閉め、右向け右を行い発炎筒を点火する動作の真似を行い、路側帯上を駆け足でカラーコーンAの手前1m③の位置まで移動(発炎筒は、左肩の高さより上に上げる。)し、安全確認(目視)をした後、路側帯上から左腕を伸ばして車進上に置く。
- ④の位置まで路側帯上を駆け足で戻り、右向け右を行い道路と平行になり、車両が進行して来る側に顔を向け安全確認をおこない、「よし。」と呼称。大旗を開き右手で持ち、車両が進行してくる側を気にしながら、⑤の位置に行き、左手でトランクを開け、停止表示板を取り出し、事故車両の右後部後方5mのところに設置する。(車両後部からカラーコーンAまでは10mあるので真ん中ぐらいのところに置く)

＜停止表示板を取り出し事故車両の右後部後方までの移動の仕方＞



- 後続車両を誘導するため、進行してくる方向を注視しながら⑥の位置(事故車両の左後部から3m後方)に後ずさりで移動する。(停止表示板設置位置から身長差にもよるが、概ね2、3歩ぐらい。)

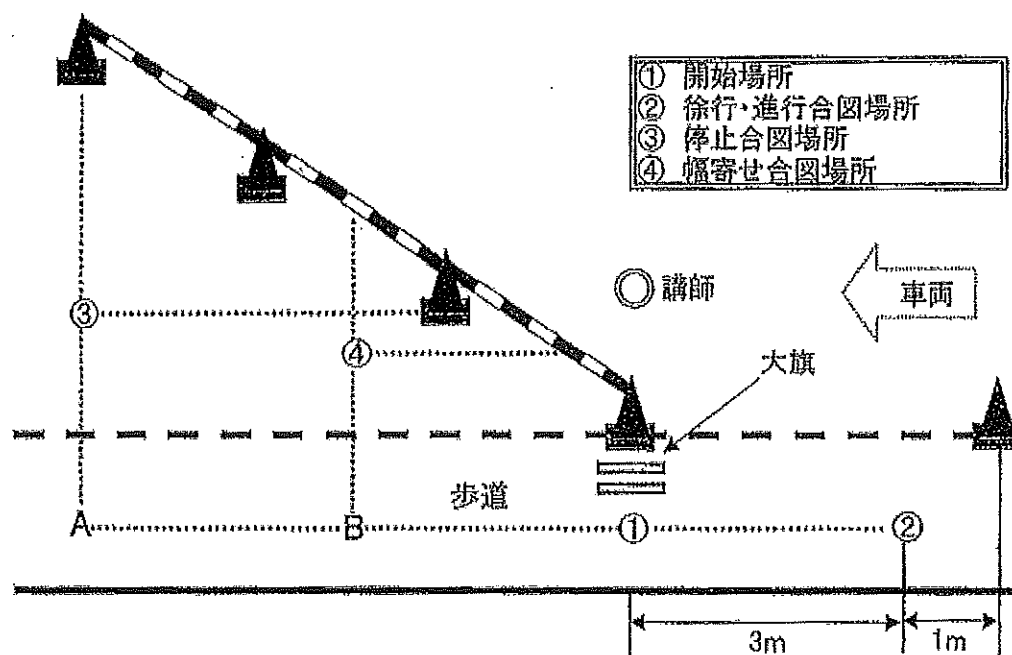
- 7 後続車両方向に正対し、左足を引きやや半身の体勢になり（下図）、右手に持っている大旗を垂直よりやや右側頭上に上げ、後続車両の運転手を注視しながら幅寄せの合図を5回行う。戻すときは、左肩の高さから手首をやや外側に返しぎみにしながら（大旗がからまないように工夫しながら）



- 8 基本の姿勢となり、大旗を絞り左手に持ち、右向け右を行い、路側帯上を①の位置まで駆け足で移動する。
- 9 大旗を巻き揃え足元に置き、講師に正対し、「終了しました。」と申告する。

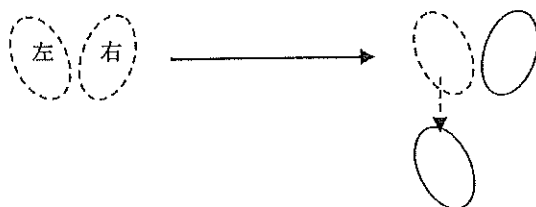
大旗を使用した基本の合図要領

設営図



号令 「只今から、大旗による車両誘導要領の実技訓練を実施する、所定の位置で、徐行・停止・進行・幅寄せの順で合図を行え、始め。」

- 1 警備員は設営図上①の位置で講師に正対し、「実施します。」と申告する。
- 2 警備員は大旗1本を左手で取り（この際、片ひざを地面につけて取る）右向け右を行い、設営図上②の徐行・進行合図場所（カラーコーンから1m手前）へ移動する。
- 3 徐行の合図は、警笛を右手でくわえ、進行してくる車両に正対して大旗を広げ、右手で旗の握り口を左手は旗の反対側を右手と対称となるように、たるませることなく握り、左足を半歩後方に引き、真っ直ぐにする。（下記図参照）



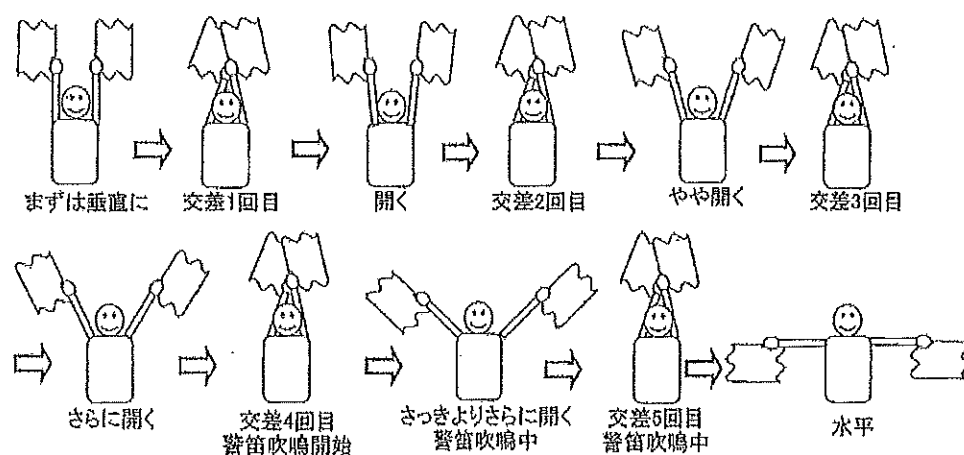
4 進行してくる車両の運転手に注目し、大旗を頭上に上げ、まっすぐ体の前面を通り、体軸から下方約30度の位置までゆっくりと下に振る。戻すときは、逆の動作で頭上まで戻す。この動作を5回繰り返す。警笛は頭上から下へ振り下ろすときに、「ピッ」と短く吹く。

- 5 基本の姿勢に戻り、大旗を絞り左手に持ち警笛をはずし、回れ右を行い設営図上①

の開始場所に駆け足で移動、置いてあるもう1本の大旗を右手で取り（この際、片ひざを地面につけて取る）駆け足で設営図上A地点を通り、設営図上③の停止合図場所まで移動し、右向け右を行い、進行してくる車両に正対する。

6 停止の合図は、停止合図位置で基本の姿勢のまま左手に両大旗を持ち、右手で警笛をくわえ、1本ずつ開き、それぞれ旗の握り口を持ち（人差し指は棒に添える）、前方を注視し、両腕のひじを伸ばしたまま側頭部に沿って垂直に頭上に上げ、車両を注視しながら、先端が約30cmの幅で交差するように、ゆっくり振り始め、大きく半円を描くように、徐々に振り幅を大きくしていきながら5回頭上で交差させ、5回目のときに両肩の位置まで水平に下ろす。警笛は、大旗を4回頭上で交差させたときに吹き始め、腕を水平に下ろし終わったときと、警笛の最後が一致するように約3秒間吹く。警笛の最後は吹流しではなく、「ピーッ、ピッ」と区切り、大旗をピタリと止める。

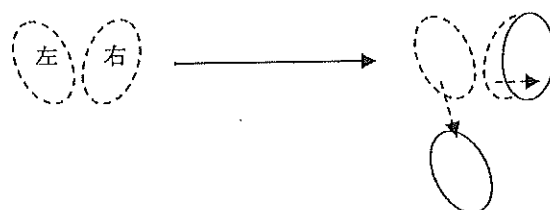
5回頭上で交差させ、5回目で下記図のように水平にする。交差させるたびに振り幅を大きくしていくので1回目や2回目の交差する際の振り幅は小さく振る。



7 両大旗をいったん左手に持ち、右手で警笛を下ろし、大旗を1本ずつ絞り、左右1本ずつ大旗を持ち、右向け右をし、駆け足で設営図上A地点を通り元の位置①に移動し、左手で持っている大旗を元の位置に置く。

8 次に、設営図上②の徐行・進行合図場所に駆け足で移動する。

9 進行の合図は、設営図上②の位置で、左手で警笛をくわえ、大旗を開き右手で持ち（握り口に人差し指を添える）左足をやや右後方に引きやや半身となり、右足かかとをやや外側にずらし真っ直ぐにする。（下記図参照）



10 車両を注視しながら、右手の大旗を肩の高さ水平に上げる。

11 大旗を大きく半円を描くように、体の前を通して、対軸から車両の進行方向へ約45度振る。戻すときは逆の動作を行う。この動作を5回繰り返し、警笛は大旗の振りに合わせて、約1秒、「ピー」と吹く。

注1 肩の高さまで上げる。それ以上は上げない。

注2 ひじを曲げると大旗が行き過ぎてしまう。

注3 振り下ろすときはひじを曲げない。

12 基本の姿勢に戻り、大旗を左手で絞り左手に持ち、右手で警笛をはずし、回れ右をし、駆け足で設営図上B地点を通り、設営図上④幅寄せ合図場所へ移動し、右向け右を行い、進行してくる車両に正対する。

13 幅寄せの合図は、大旗を開き右手に持ち(握り口に人差し指を添える)進行してくる車両に対して左足を引いてやや半身の体勢(進行の体勢と同じと考えて良い)になり、大旗を垂直よりもやや右側頭上に上げ(図4)、車両を注視しながら、大きく半円を描くように、ゆっくり振り始め、途中から左肩まで投げるように振り下ろす。戻すときは左肩の高さから手首をやや外側に返しぎみにしながら(大旗がからまないように工夫しながら)元の位置まで戻す。この動作を5回繰り返す。

注1 大旗は頭上を通る

注2 肩の高さで止める

14 基本の姿勢に戻り、大旗を左手で絞り左手に持ち、右向け右を行い、駆け足で設営図上B地点を通り元の位置①まで戻り左向け左をして、大旗を足元前方に置いて、講師に正対し、「終了しました。」と申告する。

※注意事項

- ☐ 車両は実際に動かしません。車両が進行してくるつもりで、各動作を行うこと。
- ☐ 徐行・進行・幅寄せの動作は5回、停止は5回目の交差で…とありますが、4回でもなければ6回でもありません。5回です。動作中に何回動作したか忘れてしまいますので、心の中でしっかり5回数えましょう。
- ☐ 4つの動作は説明した通りの順序で行うこと。徐行の後、同じ場所だからと言って進行の合図を行ってはならない。徐行→停止→進行→幅寄せの順序で行うこと。
- ☐ 各動作ともに合図を行う場所が決められている。設営図をよく読み覚えること。

警察機関等への連絡

状 況 想 定 文

- * 発生時間は、〇〇時〇〇分（現在の時刻）
- * 発生場所は、国道２号線の三宮１丁目交差点で、三宮デパートの東の角。
- * 交通事故発生。トラックが乗用車に追突した。
- * 私は、現場付近で交通誘導警備業務に従事している〇〇警備（自分の所属会社）の〇〇（自分の氏名）です。
- * トラックの運転手が、負傷者の救護と二次災害防止を行っている。
- * 救急車の要請が必要
- * 乗用車の乗員２名が負傷、１名は頭部を強打して意識がはっきりせず、もう１名は左足に痛みを訴えている。

メモ欄

事前講習用

交通誘導警備業務2級 警察機関等への連絡 メモ用紙

受講番号

氏 名

警察機関等への連絡（連絡例）

（警察官　：　「はい、警察です」）

警備員　：　「ゼッケン番号〇〇番です」

（警察官　　「何がありましたか？」）

警備員　：　「交通事故が発生しました」

（警察官　：「発生時間は何時ですか？」）

警備員　：「〇〇時〇〇分（現在時刻）です」

（警察官　：「発生場所はどこですか？」）

警備員　：「国道２号線の三宮１丁目交差点、三宮デパートの東の角です」

（警察官　：「事故の状況と負傷者はいますか？」）

警備員　：「トラックが乗用車に追突し、乗用車の乗員２名が負傷しました」

（警察官　：「負傷の程度はわかりますか？」）

警備員　：「１名は頭部を強打して意識がはっきりせず、もう１名は左足に痛みを訴えているため、救急車の要請をお願いします」

（警察官　：「現在の現場の状況はどうなっていますか？」）

警備員　：「トラックの運転手が、負傷者の救護と二次災害防止を行っています」

（警察官　：「あなたはどなたですか？」）

警備員　：「私は、現場付近で交通誘導警備業務に従事している、〇〇警備の（自分の所属会社）の〇〇（自分の氏名）です」

（警察官　：「了解しました」）

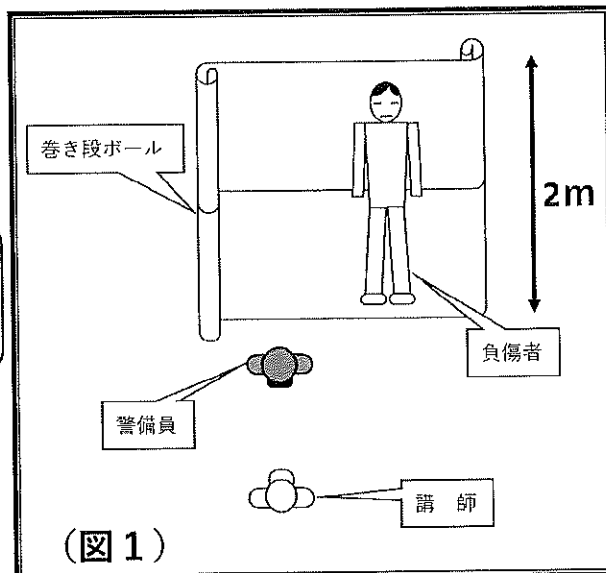
【負傷者の搬送要領】



負傷者は警備員役の左側に脱帽して並び講師に正対します。

講師：「只今から、負傷者の搬送要領の実技試験を実施する。始め。」

警備員役：「実施します。」と申告する。

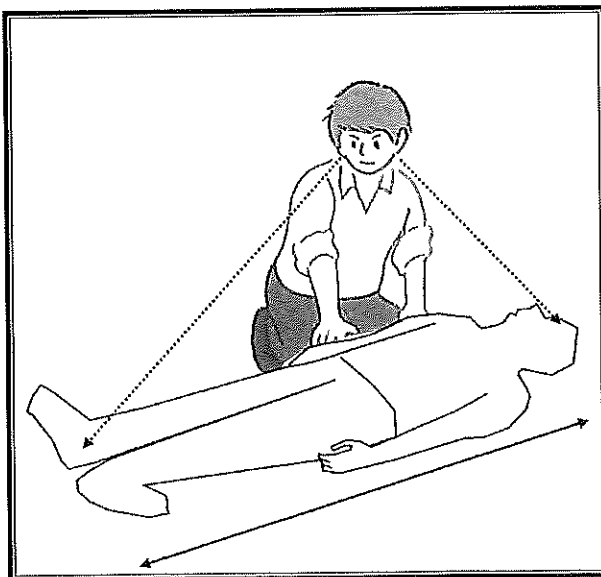


負傷者役は、警備員役の「実施します。」の発声後、その場で仰向けに寝る。
警備員役はその場で回れ右をし、負傷者の左側肩口まで移動し、両ひざ立ちになり負傷者の両肩を軽く2回たたきながら
「大丈夫ですか。」と声をかける。



負傷者役の全身を見渡して反応がない事を確認した後、再度、負傷者役の両肩を軽く2回たたきながら、1回目よりも大きな声で「大丈夫ですか。」と声をかける。

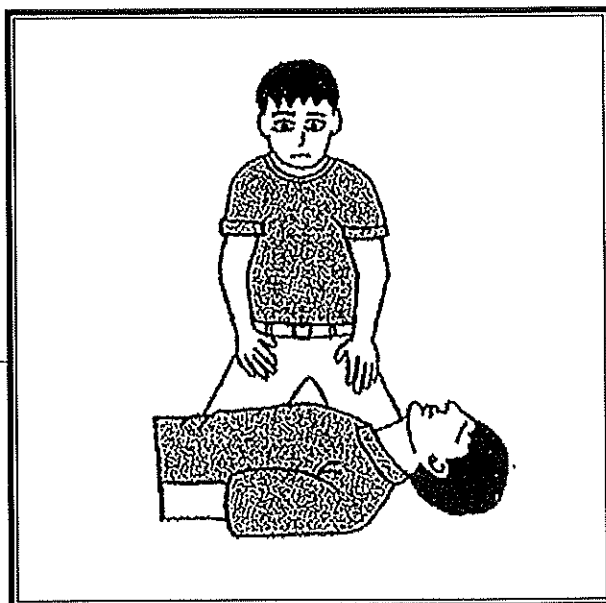
負傷者役の全身を見渡して反応がない事を確認した後、再度、負傷者役の両肩を軽く2回たたきながら、2回目よりも大きな声で「大丈夫ですか。」と声をかける。



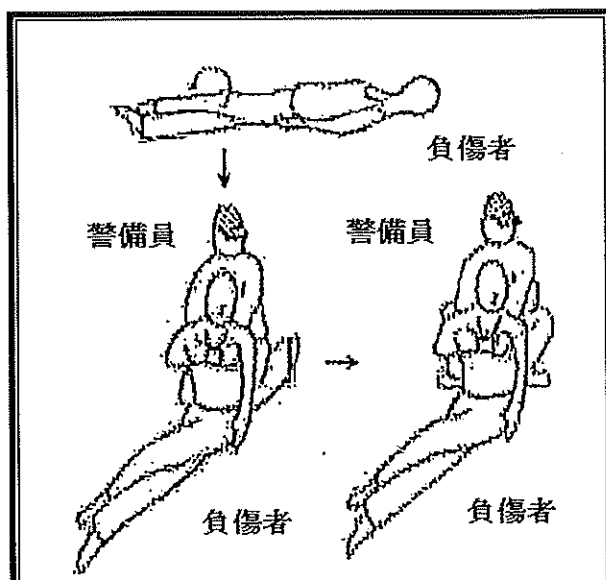
負傷者役の全身を見渡して反応がない事を確認した後、「反応なし。」と呼称する。

警備員役は、負傷者役の腹部を5～10秒以内で観察し、呼吸の確認を行う。

負傷者の胸と腹部が上下に動いているのを確認出来たら、正面を向いて、「呼吸よし。」と呼称する。



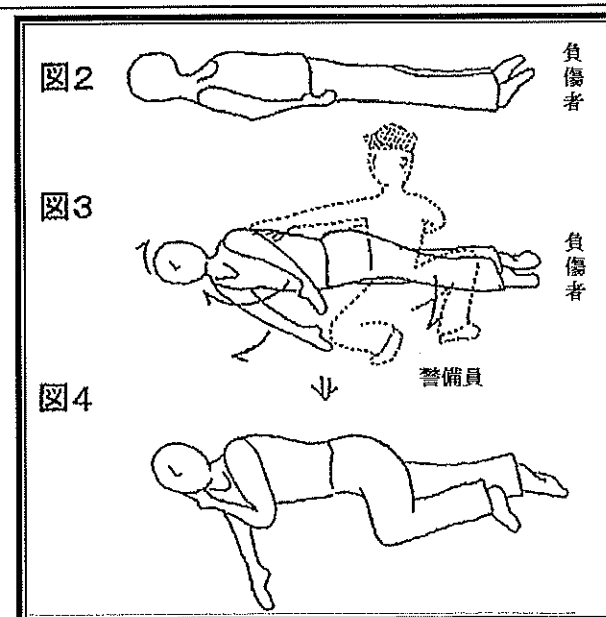
警備員役は負傷者の下肢を左足を上にして交差させた後、仰向けの負傷者の頭部へ回り、頭の方から静かに状態を起こし（ひざ立ちで上体を支えながら）負傷者の両脇から両手を差し入れて負傷者の片腕の前腕を両手でつかみ、腰を入れて負傷者を持ち上げる程度、上に引き上げる準備をし、
警備員役：「搬送準備よし。」と申告する。
講師は、「搬送準備よし。」の申告を確認した後、負傷者を安全な場所に搬送したと想定し、講師：「搬送よし。」と指示を出す。



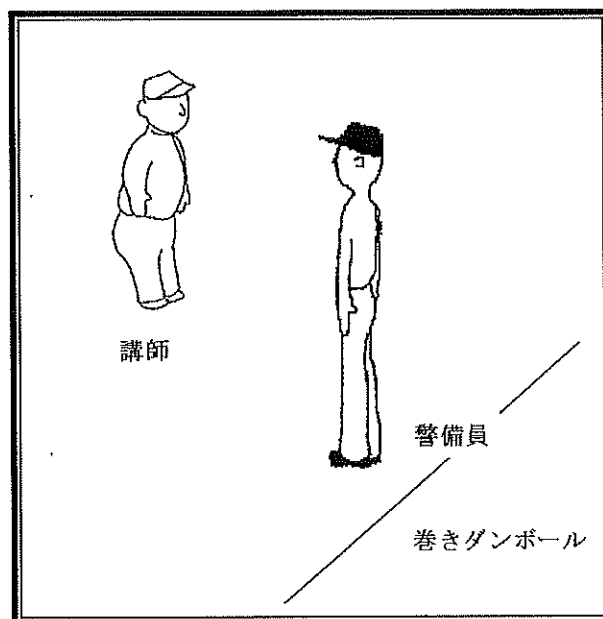
警備員役は講師の「搬送よし。」と指示を受けた後、負傷者をその場に静かに下ろし、
図2のように、再び仰向けにし、続けて回復体位にする。

警備員役は左手で負傷者の左肩、右手で負傷者の腰に右腕を巻き込むようにして持ち、図3のように手前に引き起こし、
①左足を90度に曲げる。②左腕を頭部にすべり込ませ、枕にする。③気道を確保し地面に対し斜め下に向かせる。

の順に、図4のような回復体位にする。



警備員役と負傷者役を入れ替わる。

This image shows a single sheet of white paper with horizontal ruling lines. The lines are evenly spaced and run across the width of the page. There are no margins, text, or other markings on the paper.

徒手の護身術（基本）

参照：教本 第4章・第3節・3 徒手による護身術の心構え より抜粋

1. 構え（教本：ア構え）

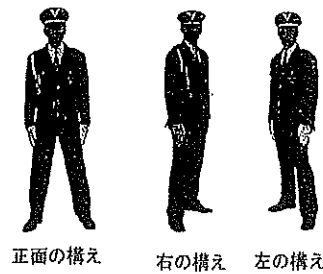
※ 両腕は自然に垂らし、相手を注視する。

(ア) 正面の構え

基本の姿勢から「左足→右足」を約半歩前に進め、両足の間隔は約一足長（肩幅よりやや広め）とする。

(イ) 右（左）の構え

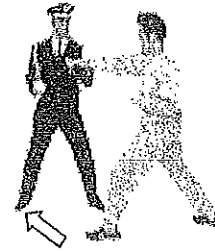
基本の姿勢から右（左）を約半歩前に進め、左（右）かかとをやや内側にずらす。



2. 後ろさばき（教本：イ、防御技②）

※ 相手が右手で胸部を突いてくるのを想定。

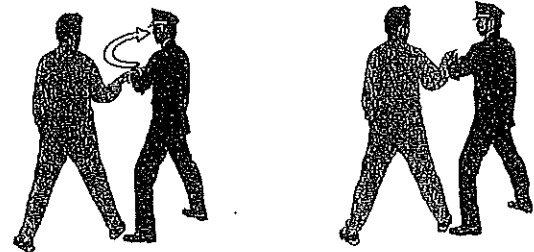
正面の構えより、右足を左斜め後ろに引く（図、矢印方向）と同時に、左足をやや引きつけるようにして、体を開き、左手刀で相手の前腕を打ち払い、左の構えとなり、右手を腰に身構える。



3. ひじ寄せ（教本：ウ、離脱技③）

※ 受、取ともに約1メートルの間合に進みより、正面の構えとなって向かい合い、受は、右足を一歩進めると同時に右手で、取の左手首を順につかむ。

取は、つかまれた左手の五指を開いて指先に力を入れ、手のひらを地に向けて、前腕を水平にしなから、左足を受けの右足先の外側近くに進めると同時に、その足を軸にして体を開き、左ひじで受けの右前腕の外側を押すようにして切り離し、身構える。



4. 片手内回し・片手外回し（教本：ウ、離脱技①②）

※ 受(相手)、取(警備員)ともに約1メートルの間合に進みより、正面の構えとなって向かい合い、受は、右足を一歩進めると同時に右手で、取の左手首を順につかむ。

(ア) 片手内回し

取は、つかまれた左手の五指を開いて指先に力を入れ、左足を受の右足外側に大きく踏み出し、つかまれた手を左から弧を描くように内に返すと同時に、左足を軸にして体を開きながら切り離し、身構える。

(イ) 片手外回し

取は、つかまれた左手の五指を開いて指先に力を入れ、つかまれた手を左から弧を描くように内から外に返すと同時に、左足を一歩踏み出しながら切り離し、身構える



片手内回し



片手外回し

5. 突き放し（教本：ウ、離脱技④）

※ 受、取ともに約1メートルの間合に進みより、正面の構えとなって向かい合い、受は、右足を一歩進めると同時に右手で、取の前襟をつかみにいく。

取は、前襟をつかみにきた受の右腕を、左手で内から外に払うと同時に、右手のひらを受けのあごに当て、右足を踏み出しながら、受の真後ろに突き離し、身構える。

